
問いを止めれば『迷信』，問いを拒絶すれば『狂信』

～工学博士でもある僧侶の話を聞いてきました～ 村田憲治（加納高校）

先日、京都の立命館大学国際平和ミュージアムで行われた Japan Skeptics（『超常現象』の批判的・科学的な研究の推進と研究者の交流を目的とする学会）の第6回総会に出席してきました。（今年度から僕はこの学会の運営委員になったのです）そのときの記念講演とシンポジウムがとても面白かったので報告します。

日野英宣氏（浄土真宗佛光寺派総務，称名寺 13 代住職）の記念講演『佛教と靈魂観』

京都大学で工学博士号をとり、研究者を目指しながら、家の事情でやむなく僧侶となった日野氏は、よく通る声で「輪廻の法は、『死んでも命がありますように』という我執が生み出した妄念であり、仏教の説くところではありません」と論理的で説得力のある話をされました。なかでも「考え、問い続けることは苦痛を伴いますが、問いを止めれば『迷信』，問いを拒絶すれば『狂信』です」という言葉が印象に残りました。

昨年、あるクラスで原子論の話をしているときについ脱線し、「輪廻転生を信じてる人はいるかな？」と尋ねたら、6割以上の生徒さんがこれを信じていることが明らかになって愕然としたことがあるのですが、この人の話を聞かせてやりたいものだとつくづく思いました。

衝撃のシンポジウム ～会場に紛れ込んだ 神秘主義者 とのやりとり～

講演につづいて、日野氏、Japan Skeptics 会長の立命館大学教授 安斎育郎氏、宗教ジャーナリストの柿田睦夫氏の3人をシンポジストとして、記念シンポジウムがもたれました。

まず「統一教会や本覚寺などの靈感商法の実態」（柿田氏）、「霊についての学生の意識実態」，「霊についての仏教各宗派へのアンケート調査」（安斎氏）等の報告があり、会場に意見が求められたとき、トンデモない人たち（会員ではないようでした）が次々と発言をはじめました。

「あなた方は、〈科学という宗教〉にとらわれているだけではないのですか」とか、「私の身近に、本当に霊にとり憑かれた人がいるんです。科学で説明がつかなくてもこれは事実なんです」とか、「〈霊のはたらき〉について、この学会は本当に把握しておられるのか？ 神秘体験というものを経験された上でお話しされているのか甚だ疑問です。これは体験した者でなければわからないのです」とかいう、驚くべき発言が続きました。めまいがしそうでした。今日までの日本の科学教育っていったいなんだったのでしょうか…。

日野氏や柿田氏もあきれかえっている様子でしたが、さすがに百戦錬磨の安斎氏は、的確な回答（ $2 + 3 = 5$ であるのは客観的な真理であり、そういう客観的に正誤が判定可能であることだけを扱うのが科学であって、もともと「信じる」とか「信じない」とかいう問題ではないこと。人間の五感というのは、ときとして錯誤に陥るものであり、〈経験の絶対化〉は、極めて危険であること）で、冷静に対応されていました。さすが会長ですな～。

そういえば総会後の懇親会で、日テレ系で放送中の「投稿！特ホウ王国2」という番組に出てた「ルービックキューブを一瞬で完成させる男」こと田中玄伯氏（彼も会員だったのだ！）と知り合うことができ、いろいろなネタを教えてもらうことができました。ハハハ。